

心に残る人権ゲーム

Human Understanding Games that
Make an Impact



講師：アリッセ・梓沼

三重県国際室

フィオナ・バート

三重県国際室



連絡先：三重県国際室：059-222-5974

国際交流・異文化理解アクティビティー

アクティビティー名	仲間探しゲーム
対象者	10才以上
所要時間	20～30分
適した人数	15名以上
適した場所	屋外 屋内 どちらでもよい
準備物	数色のシール(人数分)
ねらい (参加者にどのようなことを考え、感じてもらいたいか。)	仲間外れにされた人はどのような気持ちになるのか、相手の立場に立ってもらい、感じてもらう。仲間って何？仲間に入れる、入れないという区別はどのようにしている？何故仲間外れになる？違いがたくさんある外国人は仲間になれる？というようなこと等について考える。
すすめ方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 参加者は目を閉じる。 2. ファシリテーターは、できるだけ元気で、お喋りで、自分の意見の言える参加者を一人選び、その人にだけ赤色のシールを、一枚顔に貼る(以降この人をXと呼ぶ)。 3. ファシリテーターは、残りの参加者の顔に赤色以外の様々な色のシールを1枚ずつ貼る。その際、色が偏らないようにする。 4. 全員にシールが1枚ずつ貼られていることを確認し、下記の指示を出す。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 2分間(人数により長くしても良い)で、自分の仲間を探し、仲間同士集まる。 (2) 言葉は一切使ってはいけませんが、手を使って動作してもよい。 (3) シールをはがしてはいけなくない。 (4) グループが出来たら、部屋の隅や壁へグループごとに移動する。1

つの隅には1つのグループだけが集まる。

(5) グループごとに集まったら、しゃがむ。

5. 参加者は、目を開いて、仲間をさがす。(同じ色同士のグループが部屋の隅へ移動するが、Xは一人残り、どの仲間にも入れない)

6. 時間になったら、ファシリテーターは終了の合図をし、参加者にインタビューをする。

(Xに対して)「仲間はいないの? どうして入らせてもらえないの? 理由は分かる?」

(全員に)「この人の仲間はいないの? (「いない」と答えるはず)」

「どうして仲間じゃないの? (色が違うからと答えるはず)」

(Xに)「仲間外れにされてどんな気持ち? (寂しい、いやな気持ちと答えるはず)」

(全員に)「しかし、同じ色のシール同士でグループを作るようには言っていない。仲間を探して集まるように言ったはず。本当にこの人の仲間はいないの? 仲間だと思う人は手を上げて。」

(Xに)「さあ、仲間のところへ行ってもいいよ。」

「仲間が出来て、今はどんな気持ち? (嬉しい、ほっとしたと答えるはず)」

7. まとめ(ファシリテーターからの説明)

仲間外れにされるととても悲しく、寂しい。仲間が一人でもいれば、嬉しいし、安心できる。ワークショップでそれを全員が感じ取れたと思う。

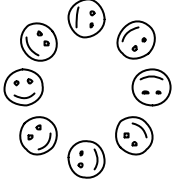
人間は自然に同じもの同士が集まり、支えあって生きている。しかし、同じもの同士といっても、何が同じなのか? 全く同じ人っていないはず。仲間とはいくつか共通点があるが、相違点のほうが圧倒的に多いはず。だ

	から「外国人は違うから」は仲間外れにする理由にならない。仲間になれないというのは共通点を見つけられないだけである。X に声をかける勇気が必要。仲間になろうという気持ちが重要。
上手く実施するためのヒント	仲間を探す指示を出すときに、シールのことを一切言わないこと。 仲間という言葉に常に強調する。
実施前に必要な準備	シールの購入
備考	

国際交流・異文化理解アクティビティー

アクティビティー名	パントマイム伝言
対象者	7才以上
所要時間	20分
適した人数	8～10人(ゲームに参加する人)
適した場所	屋外 屋内 どちらでもよい
準備物	伝言カード、笛、ストップウォッチ
ねらい (参加者にどのようなことを考え、感じてもらいたいか。)	言葉を使わずに物事を伝えることの難しさに気づく。また、言葉以外のコミュニケーションの方法もあるということも気づかせる。
すすめ方	<p>1. 参加者を、8～10人一組のグループに分ける。</p> <p>2. 1つのグループが立ち、一列に並ぶように指示する。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <p>3. ファシリテーターは、以下の注意事項を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者は、ゲーム中肩を叩かれるまでは絶対振り向かない。 ・一番後ろの人以外は、カードを見てはいけない。 ・見学している人はカードを見てもよいが、ゲーム中は話さない。

	<p>4 . 1 番後ろの人にカード（ある物と動作の名前が書かれたカード）を見せる。</p> <p>（カード例）カエル、シャワーをする、など。</p> <p>5 . 1 番後ろの人が 1 人前の人の肩を叩き、その人が振り向いたら、言葉を使わずに、身振り手振りだけでカードに書かれた言葉を伝える。この演技の時間は約 5 秒か、10 秒に限る（時間制限のため、笛とストップウォッチを使って注意する）。次に、後ろから 2 番目の人が、1 人前の人の肩を叩き、同じように演技する。1 番前の人に届くまで続ける。</p> <p>6 . 1 番前の人皆に向かって、カードに何が書いてあったかを推測して発表する。</p> <p>7 . 2 枚目のカードで、違うグループが同じゲームをする。</p> <p>8 . 参加者の感想を聞く。</p> <p>（例）どうだった？</p> <p>難しかった？</p> <p>何が難しかった？、など。</p> <p>9 . まとめ（ファシリテーターからの説明）</p> <p>このゲームに似ている実際にありそうな場面（言葉のわからない外国人が日本人とコミュニケーションを取る時など）について考えてみよう。</p>
<p>上手く実施するためのヒント</p>	<p>グループ対抗で伝えるスピードや正確さを競争させると、より盛り上がる。</p>
<p>実施前に必要な準備</p>	<p>伝言カードの作成</p>
<p>備考</p>	

	<p>2. 全員がしゃがみこみ、一気に後ろの人のひざの上に座る。</p> <p>そして全員で「せいの！」と掛け声をかけて、右足から</p> <p>一步一步で歩いてみる。</p> <p>3. ディスカッション</p> <p>Q:日本はどのように世界と繋がっている？</p> <p>Q:私たちもどうやって日常的に国際的な生活をする？</p> 
<p>上手く実施するためのヒント</p>	<p>グループは、女性同士か男性同士にすると良い。</p> <p>最初は、失敗をすることも多いが2, 3回輪を作り直したりすると上手くできる。</p>
<p>実施前に必要な準備</p>	
<p>備考</p>	